



没後 110 年

日本画の革命児 今村紫紅

2026 年 4 月 25 日（土）～6 月 28 日（日）

A Retrospective Commemorating the 110th Anniversary of the Artist's Death
“Imamura Shiko: A Revolutionary Innovator of Nihonga”



《護花鈴》、絹本着色・六曲屏風一双（図は部分）、明治 44 年（1911）、各 170.2×364.4 cm、
霊友会妙一コレクション（展示期間：4 月 25 日～5 月 8 日）

概要

明治の末から大正初期に活躍した画家・今村紫紅（1880-1916）の42年ぶり、かつ公立美術館では初の大回顧展です。平安時代から続く伝統的なやまと絵を学び、若くして歴史画において高い技量を示した紫紅は、やがて、日本画の革新を志します。琳派の俵屋宗達などの自由闊達な絵に刺激を受け、さらに南画（中国・江南地方の絵画に影響を受けて江戸後期に栄えた山水画）や、西欧の印象派などの新しい表現も取り入れて、風景画に強烈な個性を発揮しました。《熱国之巻》や《近江八景》（いずれも国指定重要文化財）に代表される、思い切った筆づかいと構図、明るい色がその特徴です。35年の生涯を力強く駆け抜けた今村紫紅の創作の軌跡を、初公開作品を数多く含む約180点を選びすぎり、4章構成でたどります。なお、各章のタイトルは紫紅自身のことばから採られています。

第1章 「古画のよい処を分解して、その後を追え！」

第2章 「絵画は矢張^{ヤハリ}多方面に描け！」

-1 三溪との出会い

-2 紫紅と琳派

第3章 「自由も、新も我にあり！」

第4章 「暢気^{ソンキ}に描け！」

みどころ

1. 42年ぶり、公立美術館では初の大規模な回顧展

昭和59年（1984）に山種美術館で開催されてから、初の大規模な紫紅の回顧展です。

2. 紫紅の全体像に迫る決定版となる展覧会

国指定重要文化財を含む紫紅の代表作、約180点が一堂にそろう、またとない機会です。

3. 初公開の作品多数

個人のコレクションから約40点の作品が初公開されます。

展示の構成

※以下、作家名記載のない作品は、すべて今村紫紅作。

第1章 「古画のよい処を分解して、その後を追え！」

明治13年（1880）、今村紫紅は横浜の提灯問屋に生まれました。17歳で上京し、歴史画の大家の松本楓湖に入門します。師のもとで粉本（古典的な画題や筆法を習うための手本）を徹底的に模写し、郊外の写生にもつとめ、本格的に日本画の修行をはじめました。ほどなく、創立まもない日本美術院の展覧会で賞を得るなど、歴史画の分野で頭角をあらわします。この章では、模写などを通して「古画のよい処」を吸収しつつ、新しい歴史画の開拓をめざした青年期の模索の様子をたどります。



《笛》、絹本着色・一幅、
明治33年頃（c.1900）、
107.8×40.5 cm、東京国立近代美術館



《鞠聖図》、紙本着色・二曲屏風一隻、
明治44年（1911）、147.4×145.6 cm、
横浜美術館



《黄石公・張良》、絹本着色・双幅、明治44年（1911）、
各130.3×56.2 cm、横須賀美術館



《伊達政宗》、絹本着色・一幅、
明治43年（1910）、120.5×71.0 cm、
横浜美術館

第2章 「絵画は^{ヤハリ}矢張多方面に描け！」

-1 三溪との出会い

-2 紫紅と琳派

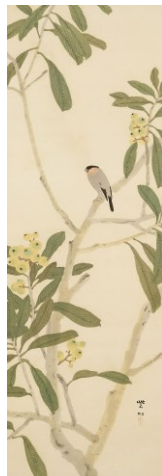
日本美術院の有望な若手メンバーとなった紫紅は、創立者の岡倉天心の教えや、先輩画家の横山大観、下村観山、菱田春草らの制作に大きな刺激を受けます。いち早く俵屋宗達などの琳派や、中国の明清時代の古画にも着目し、創作の幅をひろげていきます。また文展に出品した《護花鈴》が、桃山文化に傾倒していた横浜の実業家・原三溪の目にとり、三溪の支援が決まります。この章では、三溪の力強い援助を得た紫紅が、古画の本質を見極めて、さまざまな主題に取り組み「**多方面に**」描いた作品を紹介します。



《護花鈴》、絹本着色・六曲屏風一双（図は右隻）、明治44年（1911）、各170.2×364.4 cm、
霊友会妙一コレクション（展示期間：4月25日～5月8日）



《雷神》、紙本金地着色・色紙、
大正5年（1916）、21.0×18.0 cm、
山口蓬春記念館



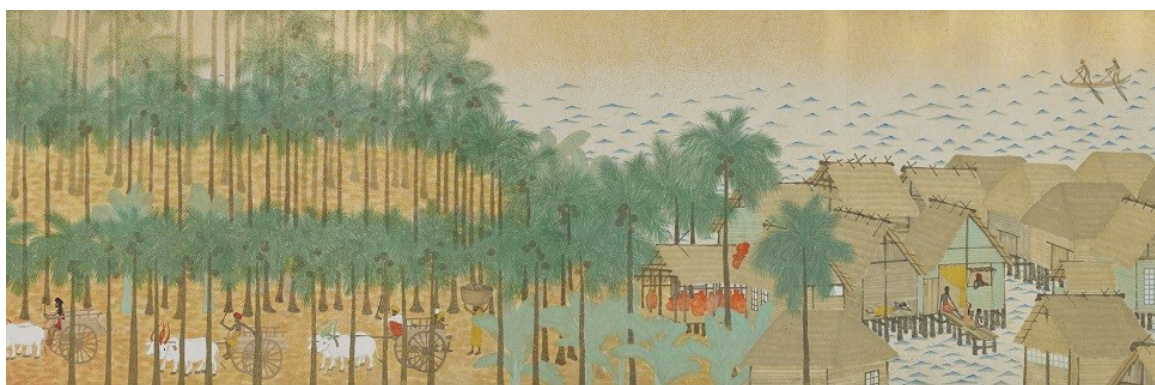
《枇杷二鸞》、
絹本着色・一幅、
大正2年（1913）、
120.9×41.3 cm、
横浜美術館



【特別展示】
尾形光琳《小督図》、
絹本着色・一幅、
江戸時代、95.6×35.2 cm

第3章 「自由も、新も我にあり！」

三溪の支援を得て生活が安定した紫紅は、画業の転機となる《近江八景》を発表します。古来名所絵に描かれた琵琶湖周辺を旅し、写生にもとづいた風景画として描いたものです。明快な色と構図には、古典的な風景画の慣例に囚われないのびのびとした心境が表れています。翌々年にはさらに新境地を求め、病後にもかかわらず、インドへと旅立ちます。道中で見た光景を絵巻に描いた《熱国之巻》は、日本画のジャンルに収まらない問題作として、賛否を巻き起こしました。この章では、芸術の「自由」や「新」は他者の中ではなく「我にあり」と語った紫紅の、果敢な挑戦をたどります。



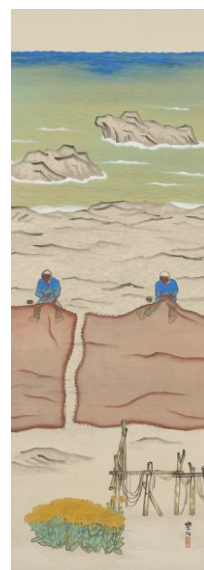
《熱国之巻(朝之巻)》、紙本着色・一巻(図は部分)、大正3年(1914)、47.5×954.5 cm、東京国立博物館
※国指定重要文化財 (展示期間：4月25日～5月20日) ※《熱国之巻(暮之巻)》は5月22日～6月3日の展示
Image: TNM Image Archives



「比良」《近江八景》より、紙本着色・八幅対のうち、大正元年(1911)、165.0×56.9 cm、東京国立博物館
※国指定重要文化財 (展示期間：6月5日～6月28日)
Image: TNM Image Archives



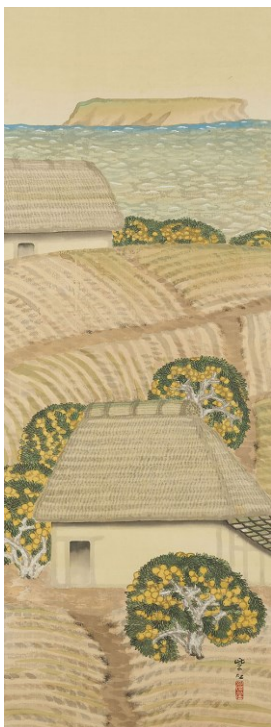
「石山」《近江八景》より、紙本着色・八幅対のうち、大正元年(1911)、165.0×56.9 cm、東京国立博物館
※国指定重要文化財 (展示期間：6月5日～6月28日)
Image: TNM Image Archives



《春之海》、絹本着色・一幅、大正3年頃(c.1914)、139.6×50.3 cm

第4章 ノンキ「暢気に描け！」

再興日本美術院の中心的存在となった紫紅は、後輩たちを導き、日本画の革新に尽くしました。理想と考えたのは、若い画家が生活に困ることなく、自由快活に、描きたい絵を追求できること、すなわち「暢気に描け」る環境でした。後輩たちとの研究会「赤曜会」は、その実践の一つでした。一方で自らは、古臭いものとされていた江戸時代の「南画」を再評価し、「新南画」ともいうべき作風を展開しつつありました。池大雅や富岡鉄斎の生氣ある絵に新味を見出し、彼らが学んだ明清絵画の研究にも打ち込みました。さらにこの時期の作品には、同時代の西洋絵画の影響もうかがえます。この章では、老成をも感じさせる晩年の紫紅の画境の深まりを探ります。



《南風》、絹本着色・一幅、
大正4年（1915）、111.0×41.4 cm



《潮見坂》、絹本着色・一幅、
大正4年（1915）、112.5×42.0 cm、
横浜美術館



《桃源》、絹本着色・一幅、
大正5年（1916）、
141.3×56.3 cm

展覧会グッズ

幸運の鳥「ウソ」とまりを抱いた「さる」のふわもこチャーム

《枇杷二鸞》《鞠聖図》から愛らしい動物たちがコロんとかわいいぬいぐるみになりました。
バッグにつけてあなたの相棒に。



各 2,200 円（税込）

音声ガイド

ナビゲーターは、紫紅と同じく横浜市出身の向井理さん（俳優）



コメント

このたび、「没後 110 年 日本画の革命児 今村紫紅」の音声ガイドナビゲーターを務めさせていただきます、向井理です。

今回は私が生まれ育った横浜での開催にご縁を感じています。

また、横浜美術館は 2011 年のヨコハマトリエンナーレでも取材させていただきました。震災後の混乱していた時期に当時の総合ディレクターの方と対談させていただき感銘を受けたことを覚えています。

国内外の文化に触れる最前線であり続けてきた港町、横浜。紫紅を育んだこの街の空気感も感じながら、ぜひ紫紅の世界を存分に味わってください。

貸出料金：1 台 650 円（税込）

プロフィール

横浜市出身。2006 年俳優デビュー以降、NHK 連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』（10 年）等話題作に多数出演。

近年の出演作にドラマ『ライオンの隠れ家』（24 年）、映画『パリピ孔明 THE MOVIE』（25 年）、舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（22 年）などがある。

カフェメニュー

「SHIKO パフェ」

日本伝統のやまと絵を礎として日本画の革新を追い求めた今村紫紅の絵の世界を、美術館喫茶室オリジナルの抹茶パフェで表現しました。その名のとおり「千紫万紅」カラフルな作品を得意とした紫紅の絵のエッセンスを、鮮やかな抹茶の色やかわいいトッピングで表しました。

※価格未定



写真はイメージです。

開催概要

- 展覧会名 没後 110 年 日本画の革命児 今村紫紅
- 会場 横浜美術館（神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1）
- 会期 2026 年 4 月 25 日(土) ～ 6 月 28 日(日)
- 開館時間 10:00～18:00（入館は閉館の 30 分前まで）
- 休館日 木曜日 ※4 月 30 日、5 月 7 日は開館
- 主催 横浜美術館、毎日新聞社、TBS グロウディア、神奈川新聞社、t v k（テレビ神奈川）
- 特別協力 丸栄堂、東京国立近代美術館
- 協力 みなとみらい線
- 後援 TBS ラジオ

■観覧料（税込）

一 般 : 2,200 (2,000 / 2,100) 円
大学生 : 1,600 (1,400 / 1,500) 円
中学・高校生 : 1,000 (800 / 900) 円
小学生以下無料

※（ ）内は前売/有料 20 名以上の団体料金

団体は有料 20 名以上の料金（要事前予約 [TEL:045-221-0300]、美術館券売所でのみ販売）

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方（1 名）は無料（ミライロ ID 可）

※前売券販売期間：2026 年 1 月 13 日(火)11:00～4 月 24 日(金)23:59

前売券販売場所：横浜美術館ミュージアムショップ MYNATE（一般前売券のみ）、ARTPASS、

展覧会オンラインチケット（e-tix）、アソビュー！、セブンチケット

※同時開催する横浜美術館コレクション展も、「今村紫紅」展チケットで観覧当日に限りご入場いただけます。

■音声ガイド付き前売券（税込）

販売期間：2026 年 1 月 13 日（火） 11:00～4 月 24 日（金） 23:59（数量限定、無くなり次第終了）

販売場所：セブンチケット限定

料 金：2,600 円

- ・音声ガイドのみの貸出料金は 1 台 650 円
- ・一般料金のみのお取り扱いとなります。
- ・音声ガイドは会場内の音声ガイド貸出カウンター（展示室入口）にてお引換えください。

■ウェブサイト

URL：https://yokohama.art.museum/exhibition/202604_imamurashiko/

横浜美術館 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <https://yokohama.art.museum>

お問合せ先 横浜美術館 広報担当（高野、高橋、岩見屋）

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-4-1

TEL：045-221-0319 FAX：045-221-0317 Email：pr-yma@yaf.or.jp

プレス画像申込はこちら